

News Letter

ニュースレター

2020.9 vol.116



緑区東部の行政サービス拠点。夢(ユメ)とarea(エリア)が合わさった愛称は一般公募で選ばれた。

特集◎ 区民が育てた「ユメリア徳重」の10年

調査研究

調べてみませんか？あなたの今いる場所！～明治時代の使われ方は？～

まちづくり支援

ARToC10「月灯りの移動劇場」～舞台に立つ日に向けて～

まちづくり来ぶらり

白鳥公園

区民が育てた「ユメリア徳重」の10年



テラス広場から見るユメリア徳重。施設をつなぐデッキは歩行空間であり憩いの場。



テラス広場から光が差し込む交通広場。



区民プラザ 支所へ、図書館へ、来館の目的は違っても誰もがここで季節の飾りつけを楽しんだり、おしゃべりしたり。訪れる人が快適で楽しく利用できるようにサポーターが見守る。

緑区東部の拠点、徳重

名古屋16区の中で最も人口が多い緑区。大高緑地をはじめとする公園や緑地、扇川や大高川、水と緑に恵まれた丘陵地は早くから広い範囲で土地区画整理事業が行われ、良好な住宅地として発展してきました。その東部に

位置する徳重エリアは、交通アクセスの良さ、生活利便施設の充実などから、近年、緑区においても人口の伸び率が高い若い世帯にも人気のエリアです。

地下鉄徳重駅を上げれば、直結するバスターミナル「交通広場・テラス広場」。それを中心に、緑区役所徳重支所や図書館など公共施設が集まる「ユメリア徳重」と商業施設「ヒルズウオーク 徳重ガーデンズ」。それぞれに役割が異なる3つですが、それぞれの敷地の高低差を歩行者デッキがつないで一体感を作り出し、多くの人を迎え入れています。

徳重駅前地区開発の始まり

多様な公共施設と商業施設、交通の結節点づくりという「徳重駅前地区開発」は、1994年、徳重北部土地区画整理事業として始まりました。周辺では都市計画道路名古屋環状2号線などの道路整備や、地下鉄桜通線の野並一徳重間の延伸など都市基盤整備が進み、その状況を見据えて、住宅地など小規模街区で当初計画されていた地区開発は、大規模街区に商業施設の誘致、行政サービスセンターと駅前広場の整備をめざす計画に変更。緑区東部にふさわしい、新たな拠点づくりへと大きく舵を切りました。



ユメリア徳重に入る緑図書館と地区会館。市内でもトップクラスの利用率を誇る。



みどり区民プラザサポーターの活動
現在活動するのは60代～80代の約50名。イベントの開催や、キッズコーナーで読み聞かせをすることも。

区民が施設づくりに どうかかわるか

徳重駅を中心としたまちづくりに夢を描きたい。その思いは民間の開発ノウハウを積極的に活用するなど、柔軟でユニークな公民共同の開発事業を展開することとなりました。なかでも今、「ユメリア徳重」の愛称で呼ばれる地域センターづくりでは、2006年の計画段階からワークショップを開催し行政と区民が協働で議論してきました。

緑区役所徳重支所、徳重図書館、保健センター分室、徳重地区会館。機能が異なる公共施設の複合体に区民がどうかかわるのか。その鍵はフリースペースとして設置されていた共用空間をどう活用するかでした。議論をもとに共用空間は4つの施設をつなぐ「区民プラザ」と位置付けられました。次の段階は「区民プラザ」で何をするか。4回のワークショップに約60名の区民が参加し施設運営のアイデアを出し合いました。「皆さん熱かったですよ。“交流したい”という意見が強くあって、驚

いたことに早い時期から運営を自分たちでやりたいと希望されていました」。こう語るのはアドバイザーとしてワークショップに参加した名古屋市立大学大学院教授の鈴木賢一先生。緑区は市民活動がさかんでアクティブだったと当時の印象を語ります。子連れのお母さんが用事を済ませる間、安心して遊べるキッズコーナーがあったらいい、談話コーナーがほしい…。さまざまなアイデアは形となって今に至っています。

施設と区民をつなげた サポータークラブ

2009年、ユメリア徳重オープンの1年前に「誰でも、いつでも、気軽に利用できる」を合言葉にした「区民プラザ」の活動を担う「みどり区民サポータークラブ」が発足。集まったのは約60名。活動は施設利用者への声掛け、案内、情報誌の発行のほか、区民プラザでの季節のイベントの企画・実施と、まさに施設と訪れる区民をつなぐ存在です。10年間途切れることなく

区民が育てた「ユメリア徳重」の10年



続いたサポーターの活動について、会長の刈谷隆さんはこう語ります。「区民の皆さんに喜んでもらえていることが私たちのやりがいです。やっぱり自分のふるさとですから、いい地域にしたいという夢があるんです」。

「区民プラザ」を誰もが集える場所として息を吹き込んだサポーターの活動。緑区だけのオンリーワンの取り組みは、ユメリア徳重をぬくもりのある場所になっています。



10年継続したサポーターの活動に対して感謝状が贈られた。

区民参加のまちづくりのトップランナー

鈴木 賢一

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 教授

いろいろな地区で市民参加のまちづくりにかかわりますが、初めは勢いがあっても、少しずつ初心が薄れていく。続けることの大変さはいつも感じています。サポータークラブがずっと続いたのは、うまく仲間づくりをされてきたのだと思います。

ユメリア徳重は公共施設と地域住民がどう接点を持つかを示す非常にいいモデルです。「区民プラザ」という場所だけを整えても住民の活動がなければガランとするだけだし、住民が盛り上がっても場がなければ活動は広がらない、非常にバランスが良かったのでしょう。こうした活動のトップランナーとして、この10年のノウハウをぜひ発信してほしいですね。



調べてみませんか？あなたの今いる場所！～明治時代の使われ方は？～

備えていますか自然災害

皆さんは覚えていますか？市内に大きな被害をもたらした2000年9月11日の東海豪雨から、今年は20年にあたります。

国の国土強靱化基本計画の下で、地下の雨水トンネル、堤防の耐震化など防災インフラの整備は当時に比べ進んでいます。

しかし、各地で頻発する記録的な集中豪雨による水害や南海トラフ地震への備え、さらには避難先での新型コロナウィルスに対する感染防止対策など、自分や家族の命を守るためにも、災害時の避難のあり方、日ごろの備えなど、一人ひとりが災害を意識し、備えることが重要です。

そこで、住まいや勤務先の今いる場所の過去から現在に至る土地利用の変遷、ハザード情報（災害の危険度）を知ることができる「まちづくり情報システムISM」をご紹介します。

まちづくり情報システムISMとは？

このシステムは、地理情報システム（GIS）を活用し国土地理院発行の地図や航空写真、陰影段彩図（標高図）、南海トラフ地震の被害想定（震度分布、液状化危険度）に加え、指定避難所、一時退避施設など災害に備えるために必要な情報を簡単な操作でパソコン上で見ることが可能です。

下の写真は、システムの画面ですが左右に分かれる二画面で左側は名古屋の土地の高さ、低さが分かる陰影段彩図（標高図）が表示され、右側には南海トラフ地震の災害想定震度が表示されています。

これにより、名古屋の地形は西側全体に標高の低い海拔ゼロメートル地帯が広がり、地盤が弱いため地震の揺れと、津波による被害も大きく、山側の東側に比べ危険なことが土地の形状を見比べることで良く分かります。

まち歩きアプリmatitekで知る防災

まちづくり情報システムISMをベースに、開発されたアプリが「matitek（マチテック）」です。

明治時代の旧版地図を基本地図とし各年代の地図との比較や、現代のgooglemapとの比較、南海トラフ地震のハザード情報などに加え、昔の名古屋市内の写真、伊勢湾台風当時の記録写真、昔の風景画（尾張名所図会）など見ることができ、まちの「昔と今」を知り、「ちょっと防災」を意識することができるアプリです。

このように、情報を知ることはもちろん大切ですが、災害に備えるには、できることを行うことが重要です。

避難所での新型コロナウィルスなどの感染症に罹ることを避けるため、自宅や親類宅が安全な場合は避難場所として機能するように、家具を固定し、非常用食品や水など災害備蓄用品を家庭内にストックするなど、今のうちにできることを始めていただけたらと思います。

「まちづくり情報システム（ISMイズム）」（ISM:Information System for Machizukuri）は、減災・防災まちづくりなど、地域の多様なまちづくり活動を支援することを目的に、名古屋都市センターと名古屋大学減災連携研究センターが共同で開発を行い構築したシステムです。

▼まちづくり情報システムの利用はこちら

<http://nui-mdc.jp/>



ISMはパソコン又はタブレットPCでのみ利用可能です

▼災害に備える名古屋市の防災情報ははこちら



▼matitekアプリはこちら

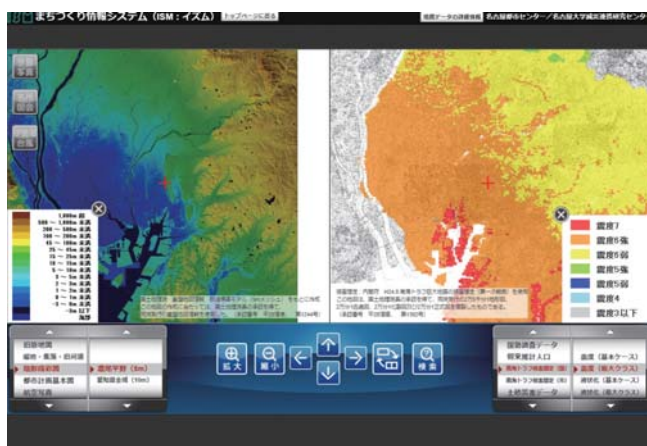
iPhone



Android



ISMを使ってわかること！



南海トラフ地震による、津波による浸水被害の想定や、液状化の危険度がわかります。あなたは自宅の危険度を把握していますか？

matitekアプリ





【まちづくり支援】



ARToC10「月灯りの移動劇場」 ～舞台に立つ日に向けて～

自分の身長より大きくて重そうな「梯子」を持ち、神妙な様子で、動きを確かめるようにゆっくりと、身体を動かす少女たち。

今年度の助成事業の一つ「月灯りの移動劇場」が実施するのは「地域と創る舞台芸術作品」。

地域の中高生を募ってのオーディションで選ばれた皆さんに、公演に向けての練習の様子や、作品にかける思いを取材しました。

代表の浅井信好さん

▶ 中高生と一緒に舞台を創る意義は？

「舞台こそが学校である」

舞台芸術には、物事を探求していく力をはじめ様々なスキルが必要。舞台を通じて、人と目を見て話をする力、自分の中から溢れ出るものを形にする力、悔しさや困難に立ち向かう力などを身に付けてほしい。それは、もともとみんながもっている力なんだけど、それを導き出す手伝いをしたい。

練習風景



初めて出演する皆さんの声

▶ 練習が始まって、いかがですか。

5月中、緊急事態宣言のため練習ができない等の充電期間を経て、今、最初に、梯子を持っている浅井さんを見たときは、これで何をやるのかとビックリした。

練習は、これまでやったことがないことの連続。梯子の重さには慣れてきたけど、梯子でストーリーを表現することはまだまだ。それでも、ここは、素の自分でいられて、自分を客観的にみられる場所だと感じています。

▶ 本番に向けてどんなお気持ちですか。

これからどんなことが起きるのか、舞台の完成形はどんななのか、わからないことだらけですが、自分でやりたいと言ったことなので、毎日ワクワクしています。

前回も出演した皆さん



前回も出演した皆さんの声

▶ 前回の出演時に感じたことを聞かせてください。

お客さんから拍手をもらい、強くやりがいを感じた。

出演した仲間とは、仲は良いけれど、役を取り合うライバルでもある。関係がビリビリしたり、口げんかすることもある。でも、全員に「いい作品を作る」という目標があるので、本気でぶつかっても、その結果、より仲良くなった。

▶ 自分に変化はありましたか？

視野が広がった。例えば、これまでは静かそうなタイプの子とは、合わないだろうと思って、付き合わなかった。けれども、ここでは色々なタイプの子がいて、話してみたら全然違ったということがあった。人は関わってみなければわからない、と今では思う。

この公演は、9月に開催予定です。

詳細は「月灯りの移動劇場」で検索してください！

ARToC10は、 今年で8年目。

あなたの思いを
聞かせてください

これまで中川運河の魅力向上を目指し、アートへの助成を行ってきたARToC10も、8年目。これまで、「こんなアートが印象に残っている」また「今後こんなことが行われたらいいな」等、声をきかせてください。また、「中川運河のこんなところが好き」「こんな思い出がある」などもお聞かせください。

メール artoc10@nup.or.jp まで



であったことと、広さや交通の便の問題から、昭和43年（1968年）、市外に木材港が建設され、木材業者の大半はそちらに移っていきました。輸送も鉄道からトラックへと移行していき、昭和57年（1982年）に国鉄白鳥駅は廃止になりま

す。白鳥貯木場の材木取扱量は年々減少し、この頃から、白鳥貯木場は数回にわたって敷地を売却し、面積を縮小していきました。

名古屋市などに売却された土地は、平成元年（1989年）に世界デザイン博覧会の白鳥会場として使用されたのち、国際会議場や公園・大学などが整備されました。現在は、公園内にかつての貯木場の跡地を示す記念碑と、「太夫堀」の名を残す池を見ることができます。

白鳥公園

熱田神宮の西、堀川沿いにある白鳥公園は、桜の名所としても知られる名古屋の都市公園です。ここには昭和期まで国内最大級の水中貯木場がありました。

貯木場の起源は慶長15年(1610年)、徳川家康の名古屋城築城にまで遡ります。家康が福島正則に命じて堀川開削を進めた折、資材置き場、船置き場として白鳥の地に大池を掘りました。この大池は、福島正則の官職「左衛門太夫」にちなみ、のちに「太夫堀」と呼ばれました。

元和元年(1615年)、木曽山が尾張藩領となったことで木曽材の流通が盛んとなり、管理のため白鳥材木役所が設置されます。貯木の管理のほか、余剰材の商人への払い下げなどが行われ、名古屋の木材産業の要として発展していきました。

その後、明治期に一時民営となるも再び官営となり、大正5年(1916年)には貨物用の国鉄白鳥駅ができ、貯木場の拡張工事がされました。また、昭和34年(1959年)の伊勢湾台風後には貯木場の設備強化・近代化も行われました。しかし伊勢湾台風時に木材の流出による被害が甚大

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『堀川 歴史と文化の探索』

伊藤正博・沢井鈴一/著 (Sc-1)

『堀川沿革誌』 末吉順治/著 (Sc-7)

『堀川散策』 末吉順治/著 (Sc-7)

『名古屋市 堀川の記憶』 松田勝三/[著] (Sc-7)

『古地図で楽しむなごや今昔』 溝口常俊/編著 (Sc-3)

『明治・大正・昭和 名古屋地図さんぽ』

溝口常俊/監修 (Sc-3)

名古屋市熱田区役所HP 熱田区の魅力

<http://www.city.nagoya.jp/atsuta/category/119-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

圖書介紹

『古民家への道 民家再生日本を住む』

著者：松井郁夫
出版社：ウエルパイン書店
請求記号：Id-7



かつて、日本には自然と共生し、丁寧に作られた家がありました。時代の流れで暗い、寒いと嫌われた日本の古民家は、どんどんなくなり、町は画一的な住宅風景になりました。ですが、古民家の伝統的工法は、現代の建築にも大いに活用できます。歴史をつなぐ古民家の魅力を、豊富な事例を通じて紹介します。

『自治体行政マンが見た
欧州コンパクトシティの挑戦』

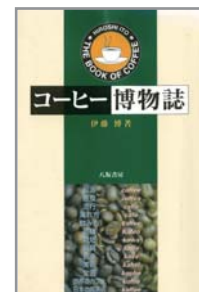
著者：一條義治
出版社：第一法規
請求記号：Hd-1

高齢化、人口減少化問題が顕在しつつある現代では、コンパクトシティを目指す事が求められています。市街地の拡大を抑制し、中心部に都市機能を集約すれば、運転しなくてもよくなり、最近、問題となっている高齢者の自動車事故防止にもなります。日本に一步先んじている欧州のコンパクトシティの事例を紹介します。



『コーヒー博物誌』

著者：伊藤博
出版社：八坂書房
請求記号：Pb-1



ほっと一息つきたい時に飲むコーヒーは身近な存在ですが、私たちの元に届くまで、長い旅路をえています。コーヒーアドバイザーの著者が、多方面からコーヒーについて案内します。世界から日本へ、コーヒーの長い旅が始まります。コーヒーが人間の歴史をどう変えたかを知る旅になるでしょう。

1

名古屋都市センターのSNSをチェック!

名古屋都市センターでは、公式FacebookとInstagramのページを開設しています。センターで行う各種イベントや展示のお知らせ、名古屋のまちづくり活動に関することなど、さまざまな情報を発信しています。

Facebookは「いいね!」、Instagramは「フォローする」を押してファンになると、名古屋都市センターからの情報が届きます。ぜひ、名古屋都市センターのアカウントをチェックしてみてください。



Facebook▶



Instagram▶



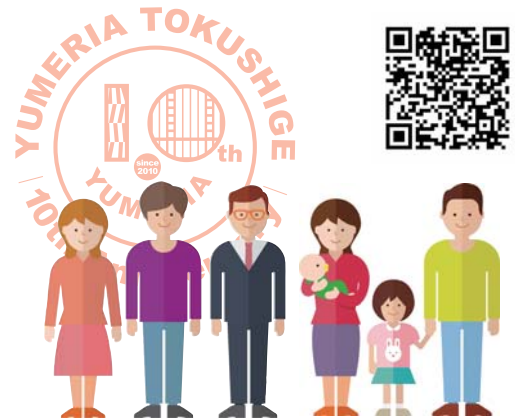
2

緑区まちづくり スキルアップ塾(徳重塾)、塾生募集!

～ユメリア徳重10周年を契機とした
協働のまちづくりと絆づくり～

10周年を記念し、住民・学生・行政職員らで協働し、まちづくりを「学び」と「実践」する半年間の連続講座を企画しました。現在、塾生を募集中です!

託児もありますので、小さなお子様連れの方にも安心して参加していただけます。皆様のご応募、お待ちしております。緑区で、楽しくまちづくり・仲間づくり、しませんか?! 詳細は、下記QRコードから



3

調査研究報告書が完成しました (令和元年度研究成果)

名古屋都市センターの研究成果をまとめた報告書が完成しました。また、一般研究に関する報告会の様子をYouTubeにて配信する予定です。(公開期間:8月17日～9月30日)

詳しい内容は右のQRコード
または都市センターHP
(<http://www.nup.or.jp/nui/>)を
ご覧ください。



《一般研究》

◎データ利活用に関する研究～スマートシティなごやを目指して～

◎成長し続ける名古屋のまちづくりに向けて

～イノベーションの観点から～

◎中川運河地区における住工共生まちづくりに関する研究

◎無電柱化によるまちづくりについて

◎近年の災害とハザードマップについて

《研究報告》

◎地域力を高める産官学の持続的な連携の仕組みの可能性

～サステナまち計画2019の取り組みによる考察～

◎ライフステージの変化に伴う居住地選択に応じた都市空間
形成戦略

《NUIレポート》

◎名古屋における戦前都市計画街路網の位置づけ

—復興都市計画街路網への継承と飛躍—

都市の魅力向上施策としてスマートシティを推進する
先進都市から見えた、まちづくりにおけるデータの役割や
有効性について研究しました。



出典:シスコンシステムズ資料

サステナまち計画とは、名古屋
市北区において、若者と地元
の企業が、立場を超えて地域課
題の解決のアイデアを出し合
う取り組みです。

この報告では、参加した若者の
アンケート結果や、参加企業
の(株)大翻、スターバックスジャ
パン名城公園店らの振返り等
をまじえた、実行委員会による
考察をお読みいただけます。

サステナまち計画



まちづくり基金を募集しています

名古屋都市センターでは、地域に根差したまちづくりを促進することを目的として、まちづくり基金を設置しております。基金の趣旨にご理解いただき、皆様のご協力をお願い申し上げます。

ご寄附いただいた方

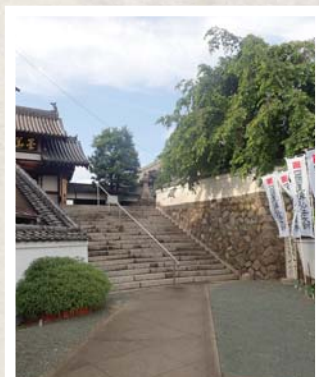
中園 昭彦 様

ご寄附を賜りました。ありがとうございました。



東
海
道
宿
場

山門の鯢が見下ろす



山門へとつながる階段と石垣。瑞泉寺の他にも、街道北の小高い丘陵地にはいくつかの寺院が存在している。

かつて東海道の宿駅として栄えた緑区の鳴海(なるみ)に位置する曹洞宗瑞泉寺(ずいせんじ)。まず目を引くのは、本堂(ほんどう)や書院(しゅいん)、庫裡(くり)や山門(さんもん)などを配する雄大な伽藍(がらん)ではないでしょうか。寺伝によると、時の鳴海城主が応永3年(1396年)に寺院を建立。その後兵火により焼失し、現在の場所に移され、絵図のような伽藍配置(がらんはいち)が完成したのは宝暦6年(1756年)と言われています。実際に現地に行ってみると絵図と同じような建物とその配置を見ることができます。いくつかは宝暦年間以降に再建されたもので、当初から現存するのは鐘楼(しょうろう)と、鯢(しゃち)を掲げた山門です。

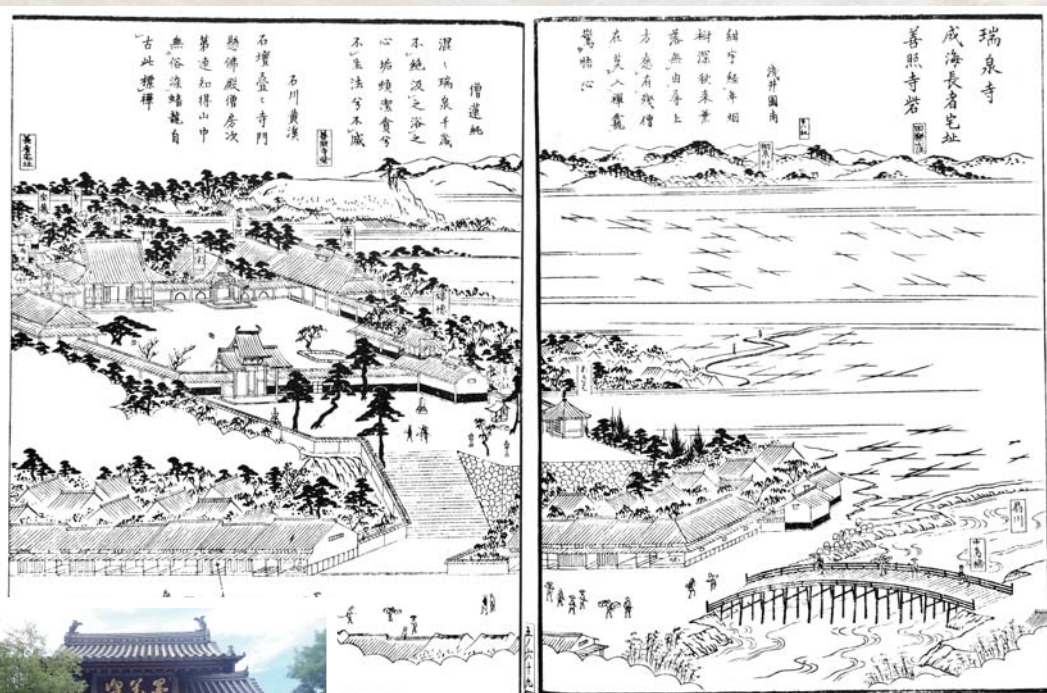
絵図は寺院の周囲もよく描写しています。寺院の眼下には格子付きの町屋(まちや)が立ち並び、東海道、寺院の背後にはかつて織田信長が築いたとされる善照寺砦(ぜんしょうじとりで)、寺院の東側には平坦な水田が広がります。

現在は閑静な住宅街となった鳴海。東海道の町屋は新しい建物に変わり、善照寺砦は住民に親しまれる公園となり、水田だった土地は区画整理事業によって整備され住宅街が広がっています。

変わらず存在する瑞泉寺を手掛かりに現地を歩いてみると、鳴海のまちの変化がより鮮明に見えてくるようです。



旧東海道の現在の様子。新たに作られた住宅も多いが、格子が特徴的な町屋建築も見られる。



京都の黄檗宗(おうばくしゅう)万福寺の総門を模したとされる山門。中国的な意匠が特徴的な黄檗形式の建築で、愛知県有形文化財に指定されている。

〔参考文献〕※()内はまちづくりライブラリーの請求番号です。
『緑区誌』緑区政20周年記念区誌編集委員会/編(2B21-83)
『新修名古屋史 第4巻』新修名古屋史編集委員会/編(Sc-4)
〈参考HP〉
龍蟠山 瑞泉寺 <http://zuisenji.nagoya/> (2020/6/24参照)

公益財団法人 名古屋まちづくり公社



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>



利用案内●どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場(展示スペース・ホール)

火～日曜日・祝休日: 10:00～17:00

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当面の間、開館時間を短縮しています。

※喫茶コーナーは令和2年3月より休業しています(再開時期未定)。

【12階】まちづくりライブラリー

火～日曜日・祝休日: 10:00～17:00

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当面の間、開館時間を短縮しています。またご利用にあたって一部制限があります。詳しくはウェブサイトにてご確認ください。

【休館日】

月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始

(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

